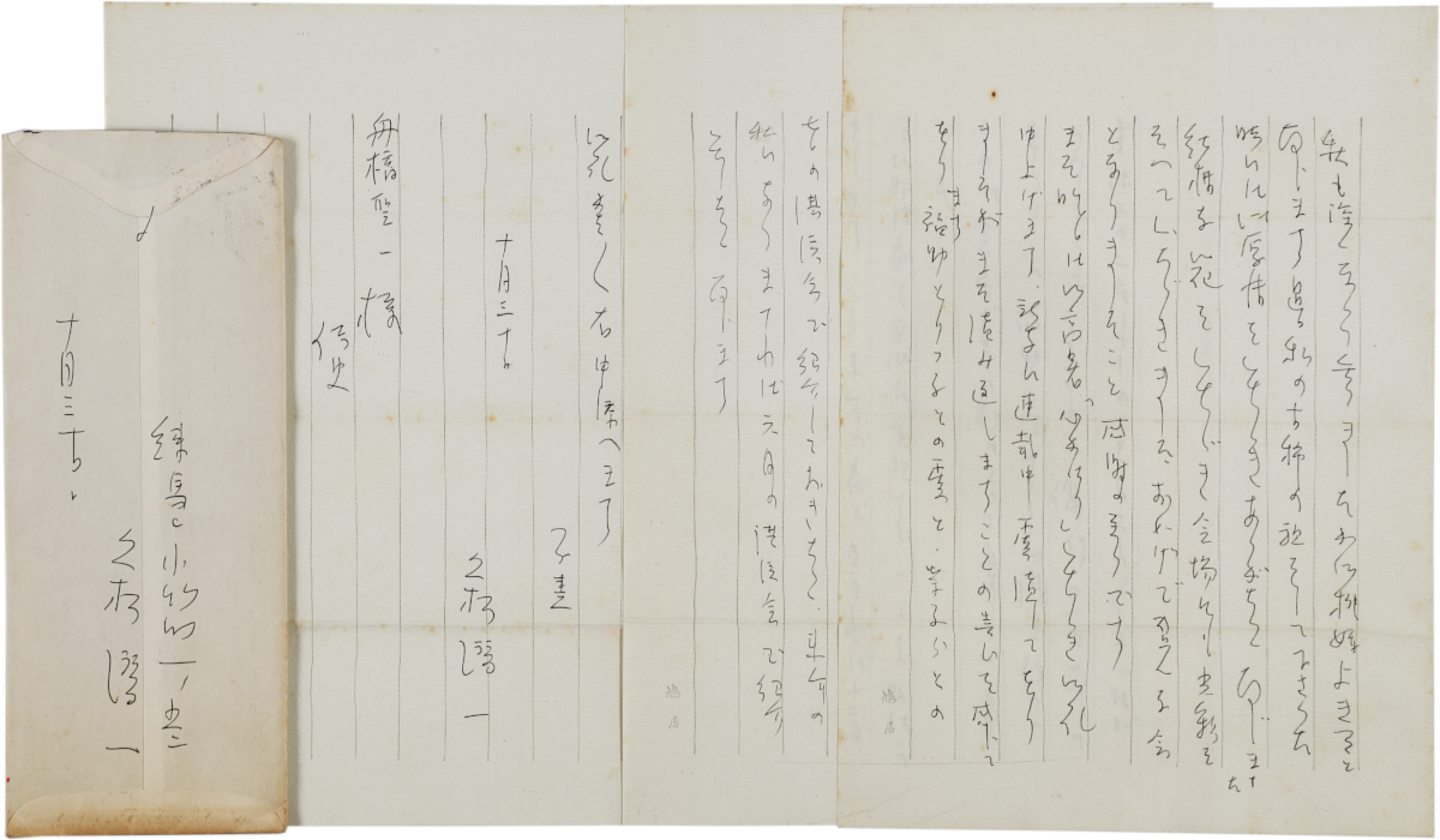

無事安着とうけたまはり候よきてに
御座候まづ島崎の方御の方御の故にてとりあへず
時節に屋敷をとりあつめおきたる
紅梅を花をしたるもの合物をし出彩を
そへて上るまづ御あげ下さる合
とうけたまはること感謝のうへ
まづ御礼の高者の心ばかりしるし
申上げまづ近頃中屋敷にて
まづ御出をたみ通しまつることの出しを感下て
まづ御御のうつるとの屋と・まるとのとの

鶴屋

その時分合で紅合をしておきたく・来年の
私はまづ御礼えの時分合で紅合
とうとうとの御まづ

鶴屋

乱筆くゝ古中屋へ上

子妻

十月三十日

久右衛門

舟橋聖一様

侍史

東京小石川一丁目三

久右衛門

十月三十日